

令和3年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
東水沢保育園

I. 保育目標

<ul style="list-style-type: none"> ●健康で明るい子ども ●豊かな心を持つ子ども ●自分のことは自分でできる子ども ●他人のことを考え、協力できる子ども ●何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども ●自然に親しみ、愛することができる子ども ●人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども

II. 施設運営の重点課題

●保育内容の充実	●風の子農園運営	●子育て支援活動の推進と地域福祉の向上
●食育指導の充実	●職員の資質向上	●障がい児保育の充実と実践研究活動の促進
●地域との積極的な交流	●和太鼓を通して日本の文化に触れる。	

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

III. 評価項目と取り組み状況

自己評価項目		評価	取り組み状況
1	保育内容の充実 ・乳幼児の健全な発達をめざし保育内容の充実をはかる。 ・養護と教育が一体となり展開されるよう進める。	B	・年齢発達に応じた指導計画を立案し、保育内容の充実を図るために、新園舎の環境の活かし方、自然体験を取り入れながらを探求し実践してきた。 ・一人ひとりの成長発達を大切にしながら保護者との面談を通して共有しあい、園全体で共通理解をはかり保育を行った。
2	風の子農園運営 ・畑活動を通して生き物の共存、収穫の喜び、食することへの楽しみ等、幼児期の教育に重要な活動とする。	A	・野菜を育てたり、お世話をしながら生長の様子、色、数、虫など様々な事への気づきにつなげていった。 ・農園の野菜収穫の喜びを感じながら、クラスごとのクッキングや園全体での収穫祭を行い、食べ物への興味や関心、感謝の気持ちをもてるようにしてきた。

3	地域との積極的な交流	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域と共に」の展開として地域との交流の在り方を考えながら保育活動を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染予防として、行事は、園児、職員、保護者のみで行った。 ・お手紙や写真、ホームページの更新等で情報発信に努めた。
4	子育て支援活動の推進と地域福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育、障がい児保育など保護者のニーズに応える。 ・地域における子育て支援の充実・推進に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育は午後8時まで行っており保護者のニーズに応えている。 ・子育て支援拠点事業は、開催日時が確定されたことで周知され安心して利用していただき、子育て家庭のニーズに応えながら交流することができた。
5	食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・食を通して家庭、地域社会との関わりを深め、子どもの心と身体の育成を促す。 ・風の子農園の野菜を生かし料理を作る等保育との連動を持つ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を深め、地産地消を取り入れながら安全安心な食材の提供を行った。 ・「食を営む力」を育むため、保護者より農園の食材を使ったレシピを提供していただきクッキングに活用した。 ・文化祭「給食コーナー」では、「子どもの食事について考える」をテーマに掲示した。 ・家庭への食や健康に関する個別対応をしながら、食育指導を行った。
6	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会に参加し保育力を高める ・「たくましい子を生み育てる保育の実践と研究」を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の取り組みでウェブ研修を受講した。 ・4園保育事業部会で取り組んでいるチーム研修では、保育士リーダーを中心に、「保護者支援」、「環境」「エピソード記述」について実践しながら取り組んだ。 ・園内研修の「年齢別会議」では話し合いや振り返りを行い資質向上につなげてきた。
7	障がい児保育の充実と実践研究活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・発達程度に応じた保育ができるよう家庭、医師、専門機関と連携を持ちながら障がい児保育の充実をはかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教室の様子等保護者と情報交換や各専門機関とも連携し、適切な支援を行うことに努めた。 ・年長児は就学に向け、教育委員会や各関係機関、小学校と連携しながらスムーズな移行ができるように努めた。
8	和太鼓を通して日本の文化に触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児が創作和太鼓「妖精の輝き」を保育に取り入れ伝承していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児になり和太鼓演奏を意欲的に行い、一人ひとりの取り組みが仲間と奏でる醍醐味を感じられるように努めた。コロナ感染予防のため、運動会、文化祭、卒園式に保護者への披露とした。